

新 市 町

しもつま 下妻市

1. 沿革

本市は水戸から汽車で約2時間、関東の名山筑波の西方に坦々として開けた沃野の中央に位し、北に下館市、南に水海道市、東に真壁、筑波郡、西は結城、猿島郡に囲まれ、東西8軒、南北8軒にわたり、丁度鬼怒川と小貝川の間にかまたがる豊沃地帯である。この地方は昔下直(しもつま)郷と称し、隣の月波郷と共に下妻庄に属し、地頭には地方豪族多気氏に次いで建久四年源頼朝の御家人小山氏が来て下妻氏と名のり、代々その居城を大宝に構え、大宝八幡宮の別当を兼ねていたが延元興国の際南朝方について滅んだ由。康正元年結城氏の家臣多賀谷氏が下妻庄、関庄の33郷を領し、さらに常総一帯6万石を治める大名となつたが、関ヶ原合戦に出陣しなかつた理由で慶長6年徳川家康から滅され、慶長11年徳川頼房が水戸へ移る前に10万石の大名として封ぜられた。後正徳3年井上正長が下妻地方の領主となつて代々1万石大名の城下町であつた。維新後若森県に属し明治6年に県の第2支庁が設けられ、県西における政治、経済、の中心地になり、さらに昭和29年4月1日には下妻町を中心に常総鉄道沿線の隣の大宝、騰波ノ江村と合併し、昭和29年6月1日には上妻、総上、高道祖、豊加美の4カ村と合併して市制をしき、面積60.38平方軒、人口32,135人(男15,375、女16,760)、世帯数5,592を有する(昭和31年12月毎月人口)田園都市として発足したが、この地方の産業経済、教育、文化、交通上の重要な産業都市としても飛躍的に発展を遂げるものと思われる。

2. 産業

まず農業面を見ると、農家戸数3,363、農家人口21,616人(男10,471、女11,145)耕地総面積3,540.8町、田1,603.9町、畑1,657町、樹園地279.9町(果樹園31.8町、桑園239.5町、茶園5町、その他3.5町)、山林731町を有し、うちおもなものは水稲をはじめ陸稲514.5町、さつまいも239.8町、大豆288.8町、葉たばこ78町などである。この地方はかんばつによる被害が毎年多く、これが防止策として深井戸による畑地かんがい奨励しており、市としても昨年6月に軽便万能穿孔機を百万円で購入し直接指導している由。また特用作物の栽培による経営の多角化を奨励しており、昨年からは葉たばこ乾燥場を利用したマツシユルム(西洋まつたけ)や福葉いちごの石垣栽培、わざび試験に成功し、外貨獲得や農家収入の増加のために将来性があるとの由。なほは騰波ノ江地区を中心に4、5年先には一大出荷地となることだろう。また家畜市場や市営屠殺場もあり、家畜組合ややこなど22万メ、野菜の出荷組合の統合強化を計り、すいかは極東、新み白菜45万メを毎年東京方面へ出荷して好評を博している。とうがらしも250町の栽培面積を有し、亜麻とともに前途が大いに囑望される。肉豚も年間35万メを京浜地区へ出荷している。次に畜産面を見ると、乳牛235頭、役牛814頭、馬247頭、めん羊129頭、山羊512頭、豚2,347頭、兎531羽、にわとり33,722羽、あひる22羽、七面鳥12羽、蜜蜂29群を有している。

次に農機具の普及状況を見ると、電動機788台、石油発動機759台、ハンドトラクター3台、動力耕うん機14台、脱穀機1,445台、足踏脱穀機828台、動力もみすり機861台、製粉機381台、精米(麦)機531台、噴霧機5台、人力噴霧機514台、動力撒粉機6台、製延機15台、製細機161台、足踏製細機1,560台、畜力カルチベーター1,279台、畜力水田中耕除草機43台、畜力砕土機758台、エンジンレーザカッター29台、いも糠飼料機2台、人力いも糠飼料機4台、畑用播種機588台、畜力すき1,868台に達している。また養蚕農家765で年間収繭高は実に41,042メにのぼっている。

次に商業面を見ると、法人および常用労働者を有する商店69、従業者数409名、年間販売額9億9,054万円、常用労働者のいない商店404、従業者数727名、月間販売額3,510万円で、飲食料品や身廻品、衣服、呉服などの小売業が非常に多い。

また工業面をみると事業所数84、従業者数502人、年間製造出荷額3億7,431万円を上回っているが、亜麻工場や切削工具製造工場、納豆工場、セメント瓦製造工場が目立っているに過ぎない。(昭和30年12月末工業調査)

3. 教育文化

ここには小学校7(分校2)、中学校6、高等学校2、各種学校5、幼稚園1あつて小学児童4,693名(男2,388名、女2,305名)、中学生徒2,166名(男1,104名、女1,062名)、高校生徒1,933名、各種学校生徒379名、園児109名を有し、この地方における教育の中心地となつている。合併後はもつぱら各地区住民の融和協調をモットーとして、青年、婦人団体や公民館を中心に新生活運動の推進を計り特に大宝、騰波ノ江、豊加美などの農村地帯をモデル部落として、夕灯会や座談会、優良図書巡回閲覧青年学級などを行い、七五三の簡素化と合同祭、祝品廃止、観音講の改善も計っている。名所旧蹟としてはまず、約1,200年前に造営されて源氏の尊崇あつて、昔から地方民信仰の中心である大宝八幡宮があり、毎年の大祭や菊祭りには数万の人出がある由この外にも下妻城跡や親鸞上人が開いた小島の三月寺、明定上人の光明寺、砂沼を中心に治水事業に献身した稲葉儀右衛門の墓などある。さらに上妻、総上地区には縄文時代の古蹟が非常に多く、考古学界の貴重な資料になつている由。

(写真は畑かんがい。)



4. 財政

昭和31年度一般会計歳入歳出予算(追加更正)

(単位円)

歳入	市税	地方交付税	公営企業及分担金	及	使用料及国庫金	支	寄附金	繰入金	繰越金	雑収入	市債	合計			
	68,243,290	31,024,000	243,559	652,000	1,835,500	10,980,180	2,684,280	134,000	40,437	500	1,048,900	3,000,000	120,096,647		
歳出	議会費	市役費	警察費	土木費	教育費	社会及び労働衛生費	保健費	産業費	統	計	選挙費	公債費	諸支	予備費	合計
	4,166,051	24,435,060	5,384,440	7,309,000	23,934,987	14,120,538	3,839,757	13,778,717	305,769	610,330	3,429,200	17,065,516	1,000,970	120,096,647	

村 の 横 顔

な が 那珂町

1. 沿革

この町は那珂郡の中部に位し、水戸から汽車で約20分、東海村と勝田市に、南は那珂川を隔てて水戸市および東茨城郡飯富村と常北町に、西は大宮町の一部と瓜連町町にそれぞれ隣接し、北は久慈川を境に常陸太田市および久慈郡金砂郷村の一部に相對している。この地方は昔中世まで大部分が那珂郡、一部が久自郡に属し、武田郷や河内郷、河辺郷、大井郷、倭文郷、木前郷、神崎郷などに分れており豪族江戸氏や關東の領藩佐竹氏の所領であつたが、後世徳川時代には約260年余水戸藩のおひざ元として、棚倉街道(太田街道)、白河街道(大宮街道)の宿場が各地に発達し、人馬の往来も盛んで非常に重要地視された。明治維新後はすべて那珂郡に一括され鉄道の発達によって水郡線、太田線の分岐点となり特に菅谷には大正時代に郡役所、昭和に入つては地方事務所が昭和30年12月まで設置されてこの地方の中心地であつた。昭和30年3月31日には、菅谷町を中心に神崎、額田、木崎、芳野、戸多、五合村の1町6ヶ村が合併して、今や面積83.57平方町、人口実に31,586人、(男15,415人、女16,171人)、世帯数5,898戸を有する(昭和32年12月毎月人口)那珂町が誕生し、全地域住民が大同團結して農業を重点に農商工一体の豊かで平和な郷土の建設をめざして力強い足跡を示している。

2. 産業

まず農業面をみると、農家戸数4,833戸、農家人口26,816人(男13,060人、女13,756人)、耕地総面積4,457町、田2,274町、畑3,151町、樹園地32町(果樹園6町、茶園3町、桑園21町、その他2町)、山林1,550町を有しているが(昭和31年夏期調査)やはり畑作経営農家が多く、中でも麦類2,160町、陸稻817町、大豆410町、さつまいも916町、らつかせい167町、こぼろ87町、葉たばこ83町、苗木類64町に達している。特に苗木の栽培は徳川時代の初期に始められたが、現在では発祥地杉、菅谷、後台、芳野、額田の各地区に広まり生産農家は372戸、すぎ苗1,757万本を最高としてひのき、ひば、まつ、くぬぎなど合せて年産約2,000万本にのぼり、市町村としては全国第一位の生産高を示し東北地方や北海道方面へ出荷して大変好評を受けている。さらに那珂川沿岸の戸多地区、久慈川沿岸の木崎、額田地区のこぼろも品質が良好で生産も多く、昨年から大阪市場まで送っている由。

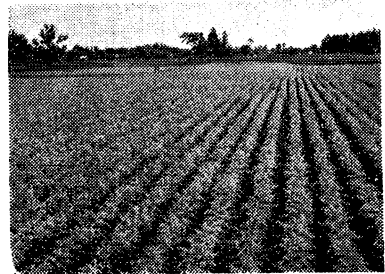
次に畜産方面をみると、乳牛177頭、役肉牛967頭、馬144頭、めん羊126頭、山羊606頭、豚2,315頭、兎708頭、にもとり25,475羽、あひる18羽、蜜蜂9群を有し、(昭和31年2月冬期調査)、次第に有畜農家が多くなつたことが目立っている。また農機具の所有状況を見ると電動機501台、石油発動機871台、ガーデントラクター4台、動力用耕うん機6台、脱穀機1,331台、足踏脱穀機2,484台、動力用もみすり機427台、製粉機123台、精米(麦)機467台、噴霧機7台、人力噴霧528台、動力撒粉機10台、製建機12台、製糞機207台、足踏製糞機1,341台、畜力カルチベーター202台、水田中耕除草機19台、碎土機315台、エンシレーヤカッター14台、いも糠飼料機5台、人力いも糠飼料機5台、畑用播種機384台、畜力すき599台に達している。この地方は畑地のかんばつが大

きながんとなつていたが国や県の直営工事として昭和25年から那珂川下江戸地先から750馬力の揚水機をもつて総延長23,500米の幹線水路を建設する那珂中部土地開拓助成事業が巨額の経費を投じて進められており、この完成のあかつきには、米33,000石の増収が見込まれている由。

すでに町の営農試験地や水稲改善展示圃が各地区に設置されている。ここには国有林や飛行場跡を利用して開拓部落が戸多、芳野五合地区に約150戸入植して立派な実績を取めているが、水田が少ないために酪農経営の育成が将来への課題であろう。また養蚕農家141戸で年間収繭高3,873メをあげている。次に商業方面をみると法人および常用労働者を有する商店34、従業者153名、年間販売額2億648万円、常用労働者のいない商店300、従業者518名で月間販売額2,041万円(昭和31年7月商業調査)で工業面みると、工場数47、従業者295名、年間製造出荷額2億9,731万円に達しているが、(昭和30年12月末工業調査)写真機用機具や澱粉製造工場、家具製造工場業が目立っているに過ぎない。

3. 教育文化

ここには小学校8、中学校7、各種学校2あつて、小学児童数4,344名(男2,242名、女2,102)、中学生徒数2,130名(男1,080、女1,050)、各種学校生徒45名を有し、校内設備特に給食設備や更衣室などの整備拡充に努めている。国民健康保険組合は、芳野地区において戦前から実施していたが、昭和32年から全町に実施する計画を樹立し、町民全体の医療保険の改善向上を期している由。また菅谷地区には県営住宅65戸、町営住宅45戸が建設され、将来は水戸市郊外の住宅街として発展する可能性が強い。次に新生活運動や社会教育方面においては、公民館をはじめ、青年団、婦人会、子供会、未亡人会などを中心に早くから生活改善や町民文化の活動が展開されており、かまどの改善、農業祭、町民運動会、洋裁、料理の講習会、ねずみ退治などを広く行っている。またここには豪華壯麗をきわめる大助祭(ちようちん祭)で近郷に知られる菅谷の鹿島神社をはじめ、源義家が奥州征伐の際再建した酒出の駒形神社、額田城址にある鹿島八幡神社、承久3年明法坊が創立して国宝聖徳太子一代繪巻を所蔵する米崎の上宮寺(真宗)などの外にも神社、寺院が非常に多い。ここには県内随一を誇る茨城変電所が横畑にある。



4. 財政

昭和31年度一般会計歳入歳出予算

(第4次更正)

(単位円)

歳入	町税	地方交付税	公営企業及使用料及 び財産収入	国庫支出金	県支出金	寄附金	繰越金	雑収入	町債	合計					
	47,869,200	25,811,000	16,050,717,025	4,323,700	5,021,008	30,001	5,603,230	3,312,619	1,623,000	94,326,833					
歳出	議会費	役場費	警察費	土木費	教育費	社会及び労働 衛生費	保健費	産業 経済費	財産費	統計 調査費	選挙費	公債費	諸 支出 金	予備費	合計
	1,701,610	31,019,481	805,313	7,746,386	17,589,954	6,173,445	1,193,275	14,210,619	835,854	367,985	449,610	778,934	6,952,884	501,149	94,326,833